

者が集まる「担い手農家情報共有連絡会」などで課題が提起されて検討した結果、JAいわてグループ農業担い手サポートセンターの「経営相談・管理サポート体制強化事業」を活用する提案をすることに決まった。

この事業は、同センターが税理士や社会保険労務士と専属契約を行い、二〇一八年度まで、県内の担い手の個別相談に無

料で応じるといふもの。そして、JAから提案を受けた義浩さんは、税理士との個別相談を実施して、おもに次のような方向性が定まった。

- ・義浩さんを代表とする法人を設立する
- ・ツネ子さんは資産を段階的に、安価で法人に売却することで、一江さんが個人として相続する資産を圧縮する
- ・ツネ子さんはすべての資産を売却したら、廃業する
- 「こういう方法があるのかと、驚きましたし、TACに相談してよかったですと思います。法人は一八年四月に設立予定ですが、定款の作成や出資金の調達などで、千田さんを窓口に取り引き続き相談していきます」
- と、義浩さんは笑顔で話す。最後に千田さんは、今後の展望を次のように語った。
- 「畜産農家は、初期投資が莫大になるので、新規参入はあまり望めません。個別対応で一軒ずつ、円滑に事業承継や相続を進めていくことが、畜産を守ることに繋がると思っています」

千田さんはさつそく、TACを統括する本店営農生活企画課に報告。JAでは、畜産農家の事業承継が進んでいない事情を鑑みて、一七年度は畜産農家を重点的に支援していく方針を固めていた。

より有利な相続をめざす

ときは作業を手伝っていたが、高齢ということもあり、年を追うごとに牛舎への足が遠のいていた。そこで一七年四月、事業承継を真剣に考えようと思った義浩さんが相談したのが、JA岩手ふるさと胆沢地域センター営農経済課のTAC・千田和明さんだった。

料で応じるといふもの。そして、JAから提案を受けた義浩さんは、税理士との個別相談を実施して、おもに次のような方向性が定まった。

- ・義浩さんを代表とする法人を設立する
- ・ツネ子さんは資産を段階的に、安価で法人に売却することで、一江さんが個人として相続する資産を圧縮する
- ・ツネ子さんはすべての資産を売却したら、廃業する
- 「こういう方法があるのかと、驚きましたし、TACに相談してよかったですと思います。法人は一八年四月に設立予定ですが、定款の作成や出資金の調達などで、千田さんを窓口に取り引き続き相談していきます」
- と、義浩さんは笑顔で話す。最後に千田さんは、今後の展望を次のように語った。
- 「畜産農家は、初期投資が莫大になるので、新規参入はあまり望めません。個別対応で一軒ずつ、円滑に事業承継や相続を進めていくことが、畜産を守ることに繋がると思っています」

TACを起点に「個別対応」で事業承継を促進

——岩手県 JA岩手ふるさと

施設や家畜などの財産が高額になる畜産農家にとって、事業承継は大きな課題である。いわて奥州牛や前沢牛のブランドで知られるJA岩手ふるさとには、TAC（地域農業の担い手に向くJA担当者）を中心に、円滑な事業承継をめざす仕組みづくりを進め、二月に開かれた「TACパワーアップ大会2017」でJA特別表彰（事業承継部門）を受けた。

鈴木加寿彦 写真 Photo by Kazuhiko Suzuki JA全農TAC推進課 企画協力



左からツネ子さん、TACの千田さん、一江さん、義浩さん。畜産担当の営農指導員でもある千田さんは、義浩さんとは週に1回は顔を合わせているという。信頼関係も磐石だ



「二〇〇七年に義父が他界して、財産は義母に相続されたけれど、その次はどうしたらいいのか。『なんとかしらないといけないなあ』と迷ったまま、一〇年の時が流れてしまいました」

岩手県奥州市で黒毛和種一〇八頭の肥育を手がける千葉義浩さん(55)は、率直に述べ、二〇〇〇年に就農した。妻の一江さん(57)と共に経営を担う。

しかし、事実上の経営者は義浩さんだが、書類上の事業主は一江さんの母・渡邊ツネ子さん(81)だ。牛や施設など多額の財産を抱える畜産農家にとって、贈与や相続は大きな課題であることは認識しているものの、税務などの知識がないため、急を要さないかぎり棚上げにしてしまふ農家が少なくない。

一方のツネ子さんは、忙しい



イラストは、JA全農TAC推進課と地上編集部によるコラボキャラクター「TACマン」

2006年から担い手に向く活動を開始しているJA岩手ふるさと。月1回開かれる「担い手担当者会議」には、JAいわてグループ農業担い手サポートセンターの担当者も参加して、「縦」の連携で課題解決をめざす。四半期に一度開かれる「担い手農家情報共有連絡会」では、営農担当職員と融資担当職員などが事業を横断して情報を共有している。写真は右から本店営農生活企画課課長の小野寺則人さんと伊藤直飛人さん



「今すぐ始めよう! 事業承継ブック ~親子間の話し合いのきっかけに~」について、義浩さんは「うちの場合、相続は喫緊の課題だったけど、まだそういう意識のない若い世代に活用してもらえれば、わたしがしたいに慌てなくてすむ。ぜひおすすめしたい」と太鼓判を押す



JA全農のHPで事業承継ブックを公開中!

JA岩手ふるさと

岩手県内陸南部、奥州市の一部と金ヶ崎町を管内とする。「前沢牛」「いわて奥州牛」や水稲を中心に、野菜、果樹、花卉など多様な農業を展開。「農業生産と販売において信頼できる仕組みを構築し、『安心、安全、安定供給』を基盤に経済的な価値を生み出し、ここ豊かな農村を創造する、東北のモデルJA・リーダーになる」ことをビジョンに掲げる。

